

# 株式会社アドインテへの出資及び 資本業務提携契約の締結について

グローリー株式会社  
2020年5月19日

# 本件の目的

## 小売店・飲食店向けに集客率を上げるDMP※サービスを提供

製品とともに、集客率向上のPDCAがまわせるソリューションサービスを展開し、リテール事業の強化を図る

GLORY

通貨処理機、情報処理機  
及び通貨端末機器、自動  
販売機、自動サービス機器  
などの開発・製造・販売・  
メンテナンス

【強み】

- ・製品開発力
- ・販売・保守ネットワーク
- ・グループ一貫体制
- ・顧客基盤



券売機  
VTシリーズ



自動決済端末  
FGHシリーズ



販売・保守ネットワーク



情報収集や分析を元に  
ソリューションを提供する  
ビジネスモデル

【強み】

- ・データ収集技術
- ・ビッグデータ解析技術
- ・データビジネスのノウハウ
- ・顧客基盤



IoT端末  
「AI Beacon」

例) 提供するソリューション

店舗分析	商圈分析	顧客分析
BIによる可視化 視覚化	顧客セグメントの 抽出	デジタル広告連携
アンケートとの 連携	棚割・コーナーの 改善	メーカー・流通 との連携

※DMP (データ・マネジメント・プラットフォーム) とは、収集し蓄積されたオンラインデータや、リアル店舗に来店された消費者の行動履歴等のオフラインデータを管理し、広告配信のアクションプラン等に役立てるデータビジネスを行うプラットフォームのこと

# 株式会社アドインテの概要

## 会社概要

出所：アドインテ社HPより

企業名	株式会社アドインテ
本社所在地	京都市下京区新町通四条下る四条町347-1
代表者	十河 慎治
事業内容	AIBeaconマーケティング、アドインテDMP、DSP事業
資本金	3億円（2019年12月時点）
設立年月日	2009年4月3日
従業員数	91名(2019年12月時点)
会社形態	取締役会・監査役設置会社

## 事業セグメント

### AIBeacon/サイネージ事業：

AIBeacon付のサイネージシステムの構築および広告枠の販売

### Geo系事業：

大手小売店など向けにAIBeaconを使った分析とともに、店舗内行動履歴を可視化するサービスも提供

### DMP事業：

大手小売店など向けにPOS等と連携したプライベートDMPを構築、運用するサービス

### トレーディング事業：

ネット広告などの運用代行、情報分析

### リテールメディア事業：

リアル店舗をメディア化し、メーカーのブランドマーケティング支援

## 事業概要

MA※とDMP※を軸に、リアル店舗の集客率をあげるサービス提供およびWEB広告事業、リテールメディア開発・運用等を行う

### ※MA（マーケティング・オートメーション）：

マーケティングの各プロセスにおけるアクションを自動化するための仕組みやプラットフォームのこと。

例：自動広告、自動リコメンドサービス他

### ※DMP（データ・マネジメント・プラットフォーム）：

収集し蓄積されたあらゆるデータ（顧客の属性データ、Webサイト上の顧客の行動・履歴等）を管理し、広告配信などのアクションプランに役立て、データビジネスを行うプラットフォームのこと

## AIBeacon 活用事例



飲食店



美容室・サロン



空港・港



交通機関



球場・ドーム



商業施設



イベント



アミューズメント施設



水族館・動物園



セキュリティ対策



デジタル  
サイネージ連動



学校、教育機関

# AI Beaconを使った来店分析

- アドインテが開発したビーコン（AI Beacon）を使ったリアル店舗での来店者（顧客）分析。
- 店舗の流動分析やヒートマップによる店舗の見える化。
- POSデータ等と連携して、販売データとの分析

## データ活用イメージ図

流通小売店・飲食店が保有するデータ



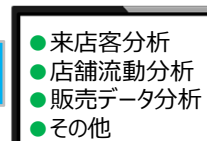
AI Beaconデータ

● リアル店舗データ

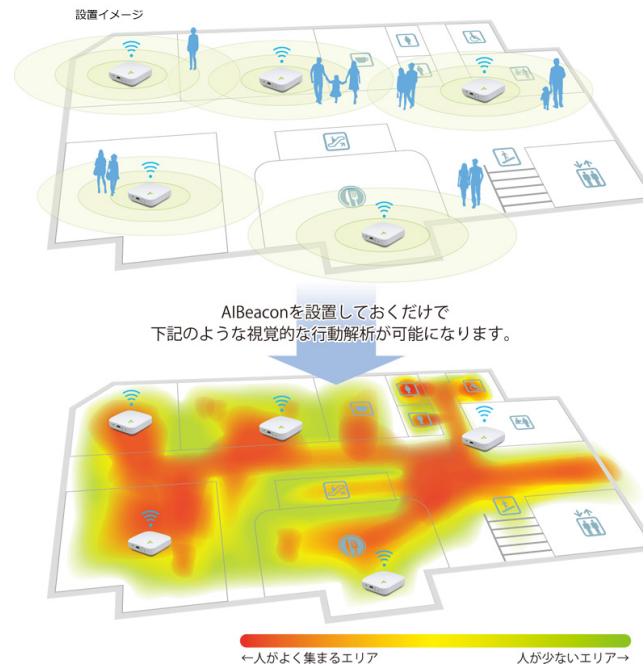
データ収集



データ活用



## 流動分析イメージ



## 情報解析イメージ



# 株式会社アドインテの強み

## 1. 業界内でもユニークな存在

- ・O2O、OMO※のトータルソリューションを相互に提供できる業界内でもユニークな存在

※ O2Oとは、ネット上（オンライン）から、ネット外の実地（オフライン）での行動へと促す施策や、オンラインでの情報接触行動をよりオフラインでの購買行動に影響を与えるような施策のこと

※OMOとは、「Online Merges with Offline」の略称で、「ネット上とネット以外の店舗などの垣根を超えたマーケティング概念」と言われています。

## 2. 独自のオフラインデータ収集技術を保有

- ・自社開発のシンプルなビーコンデバイス（AI Beacon）を使い、独自のオフラインデータ収集技術を保有

## 3. ビッグデータ解析技術を保有

- ・AI/機械学習による独自の推定分析技術を保有し顧客分析を行う、ビッグデータ解析技術を保有

## 4. 自社技術で事業を完結

- ・他社技術のライセンス（使用許諾）は受けず、自社の技術で事業を完結

# 期待される効果

## 「長期ビジョン2028」実現に向けた事業変革の推進

～デジタルトランスフォーメーションの推進による付加価値サービスの提供～

### ◆期待されるシナジー効果◆

顧客基盤・製品・保守



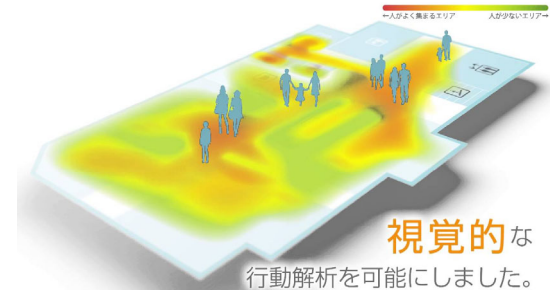
データ収集・解析技術



グローリーでは、リアル店舗におけるCS改善や業務フロー改善のための分析、施策の提案など、事業領域の拡大による競争力の向上が期待できる



行動解析イメージ



### ◆資本業務提携によるメリット◆

- アドインテのIoTハードウェア端末を利用したグローリーの流通小売店や飲食店向け製品のIoT化の推進
- グローリーの顧客であるリアル店舗を持つ流通小売店や飲食店の経営課題に応える顧客分析や店舗分析等のサービス提供
- アドインテの持つデータとノウハウに、グローリー製品のデータも加えたデータアナリティクス技術の活用によるグローリーのデジタルトランスフォーメーション推進と、新たなソリューションサービス創出による相互の事業強化

解析情報



デジタル配信

